



# 京都市交響音楽団

City of Kyoto Symphony Orchestra / Concert in Tokyo

## 東京 公演

常任指揮者就任披露

新常任指揮者  
沖澤のどか登場!  
ベートーヴェンと宇宙三部作で  
未知との遭遇!?

Program

ベートーヴェン:  
交響曲 第4番 変ロ長調 作品60

コネソン:  
管弦楽のための  
「コスミック・トリロジー」  
(日本初演)

Beethoven:  
Symphony No.4 in B-flat major op.60

Connesson:  
"Trilogie cosmique" pour orchestre  
(Japan Premiere)

指揮: 沖澤 のどか  
(常任指揮者)

Conductor: Nodoka Okisawa  
(Chief Conductor)

2023 9/24(日)

午後2時開演 (午後1時20分開場)

サントリーホール 大ホール

東京メトロ銀座線・南北線「溜池山王」駅、または南北線「六本木一丁目」駅下車

Sunday, September 24, 2023 / 2:00PM  
Suntory Hall (Main Hall)



入場料 (全席指定・税込) : ⑥6,500円 ⑤6,000円 ④5,500円 ③4,000円 2023 6/3(日)から発売

チケット  
お申込み

- サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 <https://suntory.jp/HALL/>
- イープラス <https://eplus.jp/> (PC&携帯)
- チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (PC&携帯) (Pコード: 244-781)
- ローソンチケット <https://l-tike.com/> (PC&携帯) (Lコード35587)

お問い合わせ

京都市交響楽団 075-222-0347 <https://www.kyoto-symphony.jp/> →  
AMATI 03-3560-3010

◎未就学のお子様のご入場はお断りいたします。  
◎都合により曲目、出演者等が変更となる場合がございます。



主催: 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 京都市 協賛: ローム株式会社 オムロン株式会社 日東薬品工業株式会社 マネジメント: AMATI

美しいひびき、感動にみちた  
音楽との出会いをお届けします。



# 文化芸術都市・京都が世界に誇るオーケストラ、 京都市交響楽団が新常任指揮者 沖澤のどかと挑む、待望の「東京公演」！

東京  
常任指揮者就任披露  
公演

2015年に第12代常任指揮者広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」を受賞して注目を浴びた京都市交響楽団が、2023年4月から第14代常任指揮者に就任した沖澤のどかのタクトに導かれ、2年ぶりにサントリーホールに戻ってきます！東京での新常任指揮者お披露目プログラムはベートーヴェンとコネソン。みなさん、沖澤のどかのベートーヴェン4番がどんな演奏になるかを想像してみてください…短調の序奏から始まり、突如軽快なリズムに突入。軽快なテンポで疾走感が心地よい第1楽章。一変して穏やかな旋律の2楽章。再び軽快なしゃべくり漫才を聴くような3楽章から怒涛のように刻まれる16分音符の4楽章へ…。さまざまな表情を見せる

この交響曲はベートーヴェンの交響曲の中で隠れた名曲と言えます。ギヨーム・コネソンは1970年生まれ。ジョン・アダムズ、ステイーヴ・ライヒ、ジェームズ・ブラウンらからの影響を受け、フランスの伝統的な作風に最新のアイデアを盛り込み、革新的な作品を発表し続ける大注目の作曲家です。そのオーケストレーションは見事で、まさにこの作品はそれを証明しています。第1部「アレフ」、第2部「暗黒時代の一条の光」、第3部「スーパーノヴァ」のトリロジー（三部作）から構成されており、サントリーホールを宇宙空間に…そんな感覚でお聴きいただきたい、日本初演の曲。沖澤のどか絶賛お薦めのプログラムをどうぞお聴き逃しなく！

City of Kyoto Symphony Orchestra / Concert in Tokyo

指揮 沖澤 のどか(常任指揮者)

Conductor: Nodoka Okisawa (Chief Conductor)

2019年プザンソン国際指揮者コンクール優勝、併せてオーケストラ賞及び聴衆賞を受賞。2018年には東京国際音楽コンクール(指揮)でも優勝(及び特別賞、齋藤秀雄賞を受賞)。2023年3月第21回(2022年度)齋藤秀雄メモリアル基金賞 指揮部門受賞。2020年から2022年6月までベルリン・フィルハーモニー・カラヤン・アカデミー奨学生、及びキリル・ペトレンコのアシスタント。2022年3月、連邦大統領の招きでベルリン・フィルのウクライナのための連帯コンサートを指揮。2022年5月ペトレンコとともにカラヤン・アカデミー50周年記念公演に出演。ミュンヘン交響楽団2022/23シーズンのアーティスト・イン・レジデンス。2022/23シーズンはメルボルン響、MDR響、トーンキュンストラ管との定期公演デビューのほか、N響、読響、新日本フィル、東響、日本フィル、オーケストラ・アンサンブル金沢へも定期的に客演している。2022年8月、セイジ・オザワ 松本フェスティバル2022でロラン・ペリー演出によるモーツァルトの歌劇『フィガロの結婚』を指揮してサイトウ・キネン・オーケストラへデビュー。N.ヤルヴィ、P.ヤルヴィ、K.マズアなど数多くのマスタークラスを受講。2019年と2020年のリカルド・ムーティ「イタリア・オペラ・アカデミー in 東京」指揮受講生。オーケストラ・アンサンブル金沢の指揮研究員として、また、日本とヨーロッパにおけるオペラ・プロダクションでも経験を積んだ。2020年11月東京二期会オペラ劇場公演「レハール作曲『メリー・ウイダー』」を指揮。1987年青森県生まれ。幼少期からピアノ、チェロ、オーボエを学ぶ。東京藝術大学で指揮を高関健、尾高忠明両氏に師事して修士号を取得。2019年には、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンでクリスティアン・エーヴァルトとハンス・ディーター・バウム両氏のもと第二の修士号を取得。ベルリン在住。2023年4月から京都市交響楽団第14代常任指揮者に就任。



©Felix Broede

## 京都市交響楽団

City of Kyoto Symphony Orchestra

1956年に創立し、日本で唯一、自治体が設置し、運営に責任を持つオーケストラ。2015年、第12代常任指揮者の広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞。同年6月、広上淳一指揮のもとヨーロッパ公演で成功を収め、2016年は創立60周年記念国内ツアーを開催し、平成28年度地域文化功労者表彰を受ける。2017年「第37回音楽クリティック・クラブ賞」本賞及び「第29回ミュージック・ペンクラブ音楽賞」クラシック部門「現代音楽部門賞」を受賞。2020年4月、第13代常任指揮者兼芸術顧問に広上淳一(2022年3月まで)、首席客演指揮者にジョン・アクセルロッド(2023年3月まで)が就任。2008年4月から2022年3月まで14年間にわたり常任指揮者を務めた広上淳一のもとでは、数々の名演を生み出して黄金時代を築き上げた。2023年4月から第14代常任指揮者に沖澤のどかが就任。さらに2024年4月からは首席客演指揮者にヤン・ヴィレム・デ・フリースが就任予定。京響は今、新たなステージへ向けて、名実ともに文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。



©井上亨典事務所 井上嘉和